



学校になじめない子たちと札幌自由が丘学園を応援しよう

北海道教育大学名誉教授 村山 紀昭

札幌駅北口から創成川越しに歩いて10分くらい、マンションなどに囲まれた茶色っぽいビルに自由が丘学園があります。全然学校らしくない建物ですが、玄関を入れて中をみると何となくそれらしい感じ。一つ上の階に行くと、そこがフリースクールの教室。3部屋つながっていて、一つの教室には10数人の小中生が授業を受けていたり思い思いに過ごしたりしています。

いつ行っても感ずるのですが、授業のときもそうでないときも、生徒たちが伸び伸びして、変にかしこまったりしていません。学園の名前通り、つねに生徒一人ひとりの自由を大事にしているせいでしょう。亀貝先生に以前から聞いていましたが、人を殴ったりしないなど簡単な約束事以外に細かい校則はないのです。

公立の小中学校を訪ねることもよくありますが、日本の学校ってどうしてあかも整然として、みんな少々かしこまっているように見えるのでしょうか。朝の会の校長先生の話のときの整列、授業が始まる時の、「これから算数の勉強をはじめま〜す」といった斉唱など。感覚が敏感な子のなかには、これだけでいづらい思いをしている人もいるかもしれません。

ぼくは、長年教育大に勤めていて、おもに公立の小中学校の先生を養成する仕事に関わってきました。その終わり頃、札幌市に頼まれて、引きこもりなどの若者支援のあり方を検討する審議会を頼まれました。そこで初めて、学校が嫌いだったり家に引きこもったりする若者が増えてきている実態を知ることができました。そして、公立校などのいわゆる「公教育」と、そこになじめなく学校に行きづらい生徒たちのためのフリースクールなどの「オールタナティブスクール」という学校教育の二つのあり方を正しく見ることの重要性を考えるようになりました。日本の学校制度は、「頑丈そのもの」で、なかなか変

わりません。そのなかで、子どもたちの生活や心のあり方がどんどん変わってきて、そうした学校の日常に違和感を持つ生徒が増えてきているのです。そこに自由が丘学園をはじめ、学校になじめない子たちを独自に守り育てていこうとするフリースクールの意味があるのだと思います。

数年前まで、不登校の子は、学校に適應できない「困った子」で、本来は学校に戻らせなければという考えが、学校関係者のなかで強かったようです。ようやく一昨年、教育機会確保法があらたに決まり、既成の学校以外のさまざまな学校での学習が一定認められるようになりました。

しかしこの法律では、当初想定されていたフリースクール等への財政支援は制度化されませんでした。頑丈な公教育を少しずつ変えていきつつ、もう一つの自由な学校の必要性と可能性に向けて期待していたのですが、残念な結果でした。

札幌では、その数年前、フリースクール関係の人たちの粘り強い働きかけのなかで、全国に先駆けてフリースクール等への札幌市独自の財政支援が始まっていました。もともとフリースクールでは、公的な支援はほぼゼロで、25年前にスタートした自由が丘学園も、先生方のたいへんな苦勞のなかで辛うじて続けてきていたのです。教えている先生方は、公立学校の教師よりずっと悪い条件のなか情熱で凌いできました。それだけではありません。義務教育無償の憲法原則にもかかわらず、フリースクールでは生徒たちに、やむをえず授業料をお願いしなければならないでいるのです。

自由が丘の先生方から、「ここは駅に近く、かなり遠くから電車通学で来ている生徒もいるんですよ」と聞いたことがあります。なるほど、全道に4000人ほど不登校の生徒がいるなかで、札幌以外ではフリースクールはほとんどなく、多くは事実上そのまま放置されているのが実態なのでしょう。かつ貧困格差が広がるなかで、授業料と通学費用の負担がどんなに重いものか・・・。

一度、地方に住む不登校の小学生の母親を、自由が丘にお連れして担任の先生からじっくり話を聞いたことがあります。学校になじめない子について、長い経験からの的確なアドバイスを受け、お母さんはたいへん喜んでいましたが、お住みの場所があまりに遠く、学園に通うにはいたりませんでした。横で聞いていて、学校に行けないときの家庭での勉強の仕方などについて担任のベテランの先生が見事に説明していたのを鮮明に覚えています。25年の自由が丘の蓄積にはすでにたいへん大きなものがあり、いわば北海道の貴重な教育資産です。

学校が苦手でも嫌いでもいい、事実上学校に行けない北海道の子を全員、なんとか基礎的な教育を受けられるようにしていきたいものです。

そのために、まずは北海道のフリースクールの先駆、自由が丘学園を応援しましょう。一人でも多く苦勞している生徒と保護者が安心して学び続けることができるように。同時に、公的支援の必要性をあらためて強く各方面に要請していきましょう。